

## ペノミ (カリ アン オ ウェン博士) 米国出身の元ユダヤ教徒

5.0

明: 々な人生 により、オ ウェン博士は米国や西 社会に する 属意 を失い、 きを他所に求めます。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: カリ アン オ ウェン博士

日 1 Jul 2014

集日 21 Jul 2014

「アッラ 以外に崇 に する神はなく、ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）はかれの使徒である。」

これは、私が信じるシャハ ダの言 です。

造主は多くの名前で知られています。かれの英知はいつでも知 可能で、かれの存在感は、私たちのコミュニティにおける 、 容、思いやりとして れています。

米国社会において猛威をふるう 争のような 人主 から、私たちが信仰へとお きになる彼の深 な能力は、 きに するものです。

私のシャハ ダへの道は、尊敬するディレクタ のトニ リチャ ドソンがエイズで亡くなってから始まりました。リチャ ドソン氏は、私が14 のときに演 「ル サ」のバックステジで行き いになったときには、既に国 的に められた 秀なプロでした。

私にとって 作は常に、私の内面、そして幼少 の事情の影 から私にとって残酷な でもあった外 世界においても、精神的 感情的な安 を つけだすための でした。私は世界と う代わりに、演 の中で感情的な を わせました。 くべきことに、私たちのメンバ の一部は幼染みでもあります。

それゆえ、私が17 のときから取り始めた舞台の 位は、いつの日かリチャードソン氏と共に仕事 勉 をすることへの子供の からの を果たすためのものでした。彼が（英国から）米国へ同性 を持ち み、乱交コミュニティに属したことからエイズは彼を し、彼と共に私の米国社会への 属意 も れていきました。

私は米国 西 社会の外に、イスラ ム文化に 理的ガイダンスを求め始めました。

## なぜ他でもないイスラ ムなのか

私の 母の祖先はユダヤ系スペイン人で、1492年に 端 がユダヤ人コミュニティを排斥するまでムスリムたちと共存していました。私が奥底に感じる 史的 から、ムアッズインの呼びかけは、静かな海に浮かぶ船の らめきや、砂漠を ける の蹄の音、抑 における 情を感じさせる、とても深いものです。

私の祖先への排斥の 、オスマン帝国のカリフによるユダヤ人たちへの温情について知ってから、私は自分の中に物 が生まれるのを感じました。そして が形取られたのです。神は私の学びをお きになり、私はサウス ベイ イスラミック アソシエ ションのイマ ム スィッディ キ、ラヒマのフセイン 妹、またネ ティブ アメリカンである敬 するマリア アブディン 妹、そしてIQRAのSBIA の 者たちからの手ほどきを受けました。サンフランシスコ ミッション地区にあるハラ ル（イスラ ム法において合法とされるもの）肉屋で行われた私の最初の研究インタビュー は、生まれて初めて出会ったムスリム女性であり、生きたイスラ ムの 践者として私に大きな影 を与えた人物に してのものでした。彼女はヒジャ ブを着用した 切かつ 雅な女性で、4つの言 を巧みに操ることが出来ました。

彼女の 明さと、傲慢さとは な性格は、いかにイスラ ムが人 の 度に影 しているかということを示してくれました。

私はそのとき、新たな演 だけでなく、新ムスリムも 生することになるとは思いもよりませんでした。

私の研究 程は、事としての情 だけでなく、イスラ ムについても多くを学ばせました。イスラ ムは生きた宗教であるからです。私はムスリムたちがいかに尊 と思いやりをもって日々の生活を送っているかを学ばされました。彼らは米国の性的 争 暴力の奴 市 を超越しているのです。私はムスリム男女がお互いへの言 や身体 暴力に晒されることなく共存していることを知りました。そして私は、精神的状 の反映と受け取られている慎み深い服装は、人の 度を向上させ、男女双方に精神的 を付与することを知りました。

## なぜそれに感心し、新 さを感じたのか

大半の米国人女性と同じように、私は奴 市 で育ち、家庭内の病的な性への理解だけでなく、同世代によって7 より前にもう始まる、外 に する休みなき批判の中で育ちました。私は米国社会によって、非常に幼い から、外 の魅力のみが他人に する であることを教えられてきました。言うまでもなく、こうした空 の中で、同世代からの共感を必死で求めるようになる少年少女は、ふとしたことで他者を深く憎みがちになります。彼らが求めるそうした共感とは、人の しさや思いやり、あるいは知性ですらなく、自分の容姿、そしていかに自分が他人によって られているかという意 にほぼ完全に基づいたものなのです。

私はムスリムたちからは人の完全性を求めませんし、期待もしませんが、社会的な相 は非常に重大で、私にとってほぼ信じがたいものでもあります。

私はイスラ ムにおいて されている 言者たちが既に提示したもの以外には、中 の 争の解への答えはないと思っていますし、その答えを知る由もありません。私は障碍ゆえに断食が出来ず、大半のムスリムたちがやるような方法で礼 をすることも出来ません。

ただ私は、AMILA (米国のムスリム 体) を始め、そうした で知り合った男女のムスリムによる振る舞いと言 を通して知るようになったイスラ ムを し、敬意を っています。そこから、残虐な感情的 や爆 しそうな精神性からの自由を 出したのです。

## イスラ ムについて他にどう感じているか

私はイスラ ムの推 する男女 学を支持します。それは社会における女性の 利だけでなく、男性の 利のためであり、慎ましい服装のためであり、何よりも（ 酒しないことによる）理性と 婚のためでもあります。その2つは私の人生における最も重要な要素です。私は21年半に渡りしらふで通し、幸福な 婚生活を送っています。10数 人ものムスリム たちが、同じ信仰を共有していることを感じるのは、素晴らしいことなのです。

## 全体像から たイスラ ムの最も 大な祝福とは

末を考 させることもなく、とめどない本能という祭 に自らを 牲に捧げさせるための 的なプレッシャ を私たちに与え ける社会において、イスラ ムは私たちが神によって 造された人 であり、他者との において 任を有していることを思い起こさせます。礼 、喜 、理性の 持と教育を通して、イスラ ムの道に うのであれば、私たちは や子供たちから安全な学校や地域 境、 には生命をも う、暴力や 取とは なる育ちの 境を子供たちに与えることが出来るはずなのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/62>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。